

次世代を担う人たちに希望を！

商学部教授

木下徳明



1. はじめに

今年は、現行試験制度による最後の公認会計士第二次試験の合格者が11月7日に発表されました。合格者1,308名中、中央大学の合格者108名で念願の3桁となりました。これは、経理研究所の専任の指導講師の日夜のご指導の成果であるといえます。合格された皆さんの受験勉強の成果であることは当然といえますが、指導講師の適切な指導なくして在学中の合格を実現することは難しいといえます。本当にご苦労さまでした。

大学主催の合格祝賀会には、フレッシュな、希望に瞳を輝かせた合格者の皆さんが出席し、公認会計士会会員であるOBとの交流がはかられました。

OBの会員の方々も、かつての自分の姿をオーバーラップさせて、あの時の感激を思い起こしていたことと思います。公認会計士業界の実態については、ほとんど知らない合格者の皆さんにとっては、夢いっぱい明るい業界と期待しています。私たちが合格の感激を味わっていたあの頃は、まったくおなじ立場であったと思います。

職業会計人の仲間入りができたことの喜びとともに、未知の業界において、自己の能力を力いっぱい発揮し、クライアントから感謝され、難しい試験を合格したことの満足感に浸っている自分の姿を想像している合格者の皆さんを失望させない

ことが、私たち先輩の責任であると考えます。

2. 県立岐阜商業高等学校への出前講義

平成17年12月3日、県立岐阜商業高等学校への出前講義に出かけてきました。この出前講義は、「岐阜アカウンティング会計ゼミ」と言われ、前経理研究所所長の渡部裕巨教授が中心となって推進してきた高大接続教育の一環として行われてきた制度です。この受講生は、推薦入学や自己推薦入試の出願者です。

この受講生は、高校在学3年生の7月までに、日本商工会議所主催の簿記検定1級に合格しています。通常、商業高等学校の簿記教育のレベルでは、全商1級合格を目指すのですが、岐阜商業ではレベルが高く、日商1級合格の生徒が輩出し、それによって中央大学商学部へ推薦入学を実現しているのです。今年（平成17年度）の中央大学の合格者の中には、4名の岐阜商業出身がおります。「岐阜アカウンティング会計ゼミ」をスタートさせて初めての成果であり、合格者の母校では、校長先生をはじめ指導担当の教員の方々も大変喜んでおられました。

ちなみに、経理研究所の専任指導講師の小島一富士氏は岐阜商業の出身ですし、母校の簿記教育についても適切なアドバイスをしているとのこと

でした。

また、前東海会副会長 上田圭介氏も同校の出身であったことを知りました。上田圭介氏も中央大学在学3年生（最年少）での公認会計士第二次試験の合格者でした。

上田圭介氏は監査法人トーマツの代表社員ですが、最近では、岐阜商業の生徒さんのために公認会計士の職業にかかる情報提供をし、生徒さんの中から一人でも多くの公認会計士志望が増加するような貢献をしているということを知りました。

このような環境は、県立岐阜商業という伝統と高いレベルの簿記教育の実績を持っている学校であるがゆえに整えられるのであって、一夜にして出来上がるものではないといえます。

3. 出前講義での戸惑い

出前講義の目的は、大学における授業内容を大学進学を目指す高校生に体験してもらうことによって、高校での学習と大学での学習の違いを実感してもらい、大学での学習に一層の意欲を高めてもらうことにあるといえます。

しかし、この度の出前講義は、受講生全員が公認会計士試験の合格を目標としており、大学在学中の合格を目指して大学生活をおくることを当然と考えている生徒さんです。まして、高校3年生前期で既に日商1級の合格を果たしていますので、そのレベルでの会計学の講義では満足しません。

ちなみに、中央大学商学部在学中で、公認会計士試験を目指して勉強している学生でも日商1級を全員が合格しているとは限りません。ましてや、大学の会計学（簿記、財務諸表論、原価計算論など）の受講生の一般的レベルは、日商2級の簿記検定に関連する計算及び理論の理解程度に達していれば可とすべきと考えます。

このこと考えると、岐阜商業の生徒さんの簿記会計に係る知識水準は、大学生のそれよりも相当高いといえるわけです。

以上のことからして、私の講義は、「公認会計士の職責」について語らなければならないといえます。

このテーマについては、日商1級の学習範囲で

は勉強しません。十分な情報を入手し、公認会計士についての理解を深めているという状況でもない様子なので、このテーマを講義の1コマに入れました。

もっとも、アメリカにおけるエンロン事件や我が国におけるカネボウ事件について語ることはたいへん難しいことですし、公認会計士が職責を全うできなかった不幸な事件ですが、このことについての真相は明らかではないことから、直接この話題としませんでした。

しかし、これらの不幸な事件をきっかけに、公認会計士の職業及び責任内容が大きく影響を受けてきていることは事実です。この「影響による事実」は、自由職業人としての公認会計士の誇りを失墜させてしまうようなことがらではないだろうか。そんな気持ちでいる私が、「公認会計士の職責」について語ることは、公認会計士の未来に期待している岐阜商業の生徒さんを落胆させてしまうかもしれないという気持ちになりました。

そこで、証券取引法第1条「この法律は、国民経済の適切な運営及び投資者の保護に資するため、有価証券の発行及び売買その他の取引を公正ならしめ、且つ、有価証券の流通を円滑ならしめることを目的とする。」について説明し、「企業内容等の開示」及び「公認会計士・監査法人による監査証明」について、第1条の趣旨に基づいて概略を講義しました。すなわち、出資者対経営者の関係としての受託責任に伴う説明義務、さらに、それを保証する監査との関連について、高校生向けに講義をしました。そこでの重点は、公認会計士の社会的責務の重大さについてです。

私は、次のような考えをもっています。社会的責務を貫徹するには、社会の公認会計士制度の理解を深める努力が必要と考えます。特に、財務諸表監査の特質を十分に認識して公認会計士の職責とその限界を明確にしなければならないといえます。

公認会計士監査に過大な期待を抱かせてしまうことがないようにしないと、結果として、公認会計士制度の崩壊に進んでしまうのではないのでしょうか。時間とコストの制約のもとで、公認会計士

監査が行われている実態を明らかにし、公認会計士監査の限界について理解を深めてもらう努力が必要だろうと思います。

監査の限界に挑戦することは、公認会計士監査に対する社会の期待に応えるためにも必要であるし、社会から専門職業として認められ続けるためにも必要と考えますが、組織ぐるみの不正や高度のコンピュータ技術を取り込んだ不正などの摘発は著しく困難な状況となっていると考えます。これらに有効な監査手法の開発が可能なのでしょうか。

また、時間とコストの制約が存在する公認会計士監査にあっては、これらの不正摘発は困難であるといわざるをえないのではないのでしょうか。

むしろ、これらの不正事件の発生原因を解消することの方が、公認会計士の職責として適合しているのではないのでしょうか。

企業経営者がある職責を全うするための一翼を担うことに、公認会計士・監査法人が参加することの方が有効な不正解消策ではないのでしょうか。

公認会計士のコンサルタント業務が監査業務との独立性との関連で同一クライアントに対しては共存できないとされたことは、正しい解決策であったのか、疑問に思います。これについては、アメリカにおけるエンロン事件が大きく影響しているようですが、本当にコンサルタント業務と監査業務は利害が相反することになるのでしょうか。監査法人の財政基盤を弱体化させるのではないのでしょうか。

4. 会計士補の部門選択に関連して

今年度の合格者のみならず、最近の人たちは、監査法人への就職の際に希望する担当業種として、「公開支援業務」とか、「国際関連業務」をあげ

る事例が多くあります。

その理由は、公開支援業務の場合には、自らが担当した仕事の成果についてクライアントと喜びを共有できること、仕事のやり甲斐を感じるができることなどをあげています。本人たちは全く経験がないのですから、先輩たちの経験談を通しての判断であるわけですが、なんとなく監査には魅力を感じていない様子です。

公認会計士の本業は、監査証明業務であるはずですが、魅力を感じない職域として先輩から後輩に伝わっているとしたら、公認会計士の将来はないと思うのですが、困ったことです。

監査法人における監査証明業務が専門職業人としての誇りを実感できないとしたならば、監査の限界に挑戦することなどできないと思います。日々の仕事がマニュアル化された業務をこなすことで精一杯、プロとしての誇りを感じることの喜びを味わうことがないようでは、後輩に監査業務を薦めることはできないと思います。

監査責任として指名された社員であっても、自らの責任のもとで監査意見を形成できないようでは、クライアントからの信頼は得られないことにもなるでしょう。また、経営者との信頼関係を築くことはできなくなります。信頼関係を築くことは馴れ合い関係になることではないはずですが、相互に信頼関係を築くことは、経営者不正の防止に大変有効だと考えます。

日本の経営と日本的監査の相互連携などということは夢でしょうか。

次世代を担う人たちに、希望の持てる業界に改革していくことが、業界の先輩たちの責務であると思います。

取りとめのないことをかきました。 合掌

会長に就任して

中央大学公認会計士会会長
福田 眞也



中央大学公認会計士会では、設立当時の川北会長、増田浩二幹事長の下での会員集めや、規程作成のお手伝い、会報（「絆」）の編集、会計事務等を行い、山本会長の下で幹事長を務めました。このたび会長に就任することとなりました。

中央大学公認会計士会には、長期間同一人が会長に就任する弊害を避けるとの理由で設立当時から会長の任期は2年とのルールがあり、適任者が短期間で退任する結果となってしまう、経験豊富な先輩会長の後を引き継ぐことになりました。

他大学に公認会計士だけの会計士会があるのに伝統のある中央大学に公認会計士だけの会計士会がないのは問題であるとの、設立当時の川北会長、増田幹事長の熱意が今でも鮮やかに思い出されます。

思い起こすと、中央大学を卒業後しばらくして公認会計士川北博事務所に無資格で入り、翌年の公認会計士二次試験合格後は川北先生のほか故井上達雄先生、故村田義男先生、当時経理研究所にいた木下徳明先生たちと一緒に監査に従事出来たことがすばらしい経験となっています。その後公認会計士になる前に等松・青木監査法人（現監査法人トーマツ）に移ったためすばらしい経験の期間は短かったのが残念でした。

監査法人トーマツにおいては、監査業務に従事したほか、中央大学出身の公認会計士の先生方の応援を得て、日本公認会計士協会の理事、常務理事に就任しました。理事、常務理事としては、広報担当としてJICPA ジャーナルの編集、JICPA ニュースレターの創刊を行い、監査業務審査、学校法人も担当しました。さらに会計士補担当として、実務補習所の増設等による会計士補の実務補習の充実に努力したほか、公認会計士試験制度の改革

にも関与し、二次試験合格者が800名前後の当時今後の監査時間の増加を見込み1,500名の合格者にするよう当時の公認会計士審査会の公認会計士試験検討小グループにおいて強く主張しました。また、当時新設された品質管理委員会の作業部長も担当しましたが、会計士協会の自主規制で問題がないと皆が考えていた時代でした。しかしその後、改正公認会計士法の施行で公認会計士監査・審査会のモニタリングも開始され、協会による自主規制から法的規制への移行が顕著になってしまいました。

最近においても、協会において新公認会計士試験制度における実務補習の習熟度をチェックする実務補習の修了考査（日本公認会計士協会が実施する）の準備作業に携わっています。3次試験がなくなる新公認会計士試験制度においても従前の試験制度と同レベルの公認会計士が輩出されるよう修了考査の準備を進めています。なお、修了考査は経過措置期間である最近3年間の二次試験合格者の実務補習の終了試験も兼ねることとされています。

公認会計士、公認会計士業界に対する社会の批判はカネボウ事件以来特に厳しくなっており、最近の耐震偽装でのテレビのニュースショーでは「公認会計士のように一級建築士もだめだ」とだめな例にまでされていると言われています。地に墜ちた社会からの信頼を回復するのは容易ではありません。対策としては、各人が全力で、担当している監査の監査時間を増加させることによって監査の品質のレベルを上げ、不祥事の再発防止に努める地道な方法しか考えられません。社会の期待に応え、今後導入が予定されている財務情報に関する内部統制報告書の監査を積極的に実施し、企業における不正の発生の防止に寄与する等新し

い分野での活動も重要であると考えられます。

このような厳しい批判にさらされている公認会計士業界ではありますが、公認会計士を目指す試験受験者が増加しそのことにより多くの合格者が出るのが公認会計士制度、業界の発展に重要であることは言うまでもありません。平成17年11月の17年度の二次試験の合格発表では合格者数が減少したにもかかわらず、中央大学は始めて三桁108名（中央大学調べ）の合格者を輩出し、鈴木敏文新理事長、外間 寛総長、永井和之新学長も出席され盛大な祝賀会が開催されました。中央大学、商学部及び経理研究所の長年のご努力に対し敬意を払うものです。来年度以後も受験者が

加しその結果合格者が増加（但し、18年度は新試験制度になり論文試験の科目合格が認められるため最終合格者は減少するのではないかとされている）するように願っています。中央大学公認会計士会としても、会員の協力を得て従前にもました支援が必要であると思っています。

この厳しい現状を打破するためにも、若い未加入の中央大学出身者の公認会計士、会計士補に加入を呼びかけるとともに、日本会計士協会の役員との協力も得て会員にとって魅力ある行事を多数企画し、中央大学公認会計士会の発展に寄与していきたいと考えております。

第18回CPAゴルフ十月会開催される

CPA十月会 中央大学世話人
川 和 浩

秋晴れに恵まれた10月2日(日)、第18回CPAゴルフ十月会が、東急セブンハンドレッドクラブ（千葉市緑区小山町）で開催されました。幹事大学は第16回、17回大会を連覇した早稲田大学であり、参加大学数16校、参加人員100名、我が中央大学から12名の精鋭プレーヤーが参加いたしました。成績は以下の通りであり、残念ながら

今年は惨敗でありましたが、次回を大いに期待しております。

過去18回の大会を振り返りますと、我が中央大学は、5回優勝（ネットの部）しており、早稲田大学の4回、専修大学の4回に勝っております。しかしグロスの部優勝はありません。

(成績) ネットの部

優 勝	専修大学	287.8 ストロークス
準優勝	早稲田大学	288.2
第3位	明治大学	290.8

グロスの部

優 勝	早稲田大学	323 ストロークス
準優勝	明治大学	333
第3位	専修大学	335

なお、個人の部の優勝は専修大学の亀山雅明氏であり、中央大学の川村芳則氏が第3位に入賞しました。

ベストグロスは、西コースで近野博氏（早稲田大学）、東コースで川口隆男氏（専修大学）が獲得しました。

次に、CPA十月会の競技方法を簡単に説明します。

- (1) 18HS ストロークプレー（新リペア方式 H.C.、年齢優先、H.C.上限40）
- (2) 団体の部、各大学の上位4名のスコアの合計によります。ネット及びグロスそれぞれを集計します。4名未満の大学は連合チームを作ります。
- (3) この2～3年女性の参加者が増えていますので、レディースの優勝者を表彰しています。

す。

- (4) プレー費は、昼食・1ドリンク・パーティー費用・消費税全てを含めて28,500円です。他に賞金代として参加者1名当たり3,000円を会費として徴収しています。

今回の幹事校は04ストロークという僅差で優勝した専修大学となり、何かと御世話をかけることとなります。今回の開催日は平成18年10月7日（土）と決定しており、多数の参加者を期待しておりますので、今からスケジュール表に記入下さい。

第二次試験合格体験記

経済学部2004年卒業
柿沼良枝

11月7日、霞が関において、何度も自分の受験番号と名前を確認した瞬間から一ヶ月が経過した今、祝賀会や入社式、実務補習所での研修を通じて、公認会計士試験に合格したことをようやく実感し、喜びをかみしめています。

私が公認会計士という資格に興味を抱いたのは高校生の時でした。将来はやりがいのある仕事がしたい、社会に貢献できるような人間になりたいと思う一方で、女性として結婚、出産や育児の重要性を考えた時に、脳裏に浮かんだものが資格を取得することでした。専門家として、限られた人間にしかできない仕事に携わることができるうえ、生涯を通して効率よく働くことができるのではないかと考えたためです。

中央大学に入学し、公認会計士の資格取得講座である経理研究所の存在を知りました。当時、大学生活を有意義なものにしたい、大学に入って得たものは何かと尋ねられた時に、何か一つこれをやりましたと自信を持って答えられるものがほしい、そして自分に付加価値をつけて卒業したいと考えていた私にとって、大学の構内で資格の勉強ができる経理研究所は、自信を得て、夢を叶えるためのチャンスを与えてくれる場所なのではない

かと感じ、入所を決断しました。熱心な講義、整った設備・施設など恵まれた環境の下で、思う存分勉強に励んでいた日々はとても充実したもので、合格に向かって邁進していることを感じながら努力してきました。

しかし、私の受験生活は順調なものではありませんでした。私はこの度の受験に際し、二度の大きな挫折を経験しました。

その一つは、短答式試験不合格です。私は4年生合格を目指し、一つ年下の三年生合格を目指す仲間とともに勉強してきました。ともに勉強してきた仲間の多くが短答式試験に合格し論文式試験を目指す中、私は翌年の試験に向けて不安な気持ちで勉強を再開しました。その頃は、最後まで仲間とともに合格を目指したかったという思いが強く、論文式試験を受けることができないという現実を受け止めることに必死でした。度々、論文式試験を目指す合格者と先が見えなくなった自分とを比較しては、合格者の中に自分自身がいないという現状を悲しく、悔しく感じていました。また、私を応援してくれた両親をはじめ、支えてくださった人々により報告ができない自分を不甲斐なく感じ、自分自身の詰めの甘さを大いに反省しまし

た。この年、合格発表というものを区切りに身の回りの環境が大きく変化することを痛感しました。ともに同じ授業や答案練習、ゼミを受けてきた受験仲間が合格発表をもって、夢を実現して道が開けた者と再び人生の選択に迫られる者とははっきりと分断されてしまうことを、私は後者として体験し、そして合格の保証のない資格試験の重みというものを再認識しました。

二つ目は、論文式試験の不合格です。一年目の反省から計算力の強化、安定した論文力を身につけることを目標に実力を図った上での失敗は、精神面にあったと思います。当時私は、目標とする人に近づくためには、その人以上に努力しなければならないと自分に言い聞かせて、無我夢中で勉強していました。その結果、答案練習の成績に一喜一憂してしまい、本試験で結果を出すという本来の目的を見失ってしまっていたのです。これに対して、今年合格できた理由は、毎日自分自身が納得のいく日々をおくれたことにあると思います。他の受験生と競うのではなく、昨日の自分と闘えたこと、本試験会場で落ち着いて問題文と対話できたことが合格を導いたのではないかと、過去を振り返り感じます。

こうして合格することができましたが、不合格を経験してからの2年間は精神的にも追い詰められた日々でした。知り合い、況して年下の後輩が合格していく中で、いつになったら自分も会計士になれるのだろうか、次こそは合格したいというプレッシャーも年々大きくなりました。また、高校時代の友人が仕事の話をしている姿をみて、社会に出遅れている自分に焦りを感じ、いっそ思いきって受験をやめてしまおうかとさえ思い悩むこともありました。しかし、私が最後まであきらめずに受験を続けることができたのは、経理研究所の存在とそこでできた仲間、そして多くの人々の支えがあったからだと思います。

講師の先生は、不合格を通じてしか得られないものがあること、そして挫折から得られる経験が価値のある社会勉強になるということを教諭してくださいました。一緒に勉強してきた仲間は、

ともに励ましあい、私を勇気付けてくれました。合格者は、仕事の話や補習所の話で私の夢を膨らませてくれました。両親は、後悔しない道を選ぶよう私の意志を尊重してくれました。もし、一人で受験生活を送っていたとしたら、おそらく途中で投げ出していたでしょう。周囲の人々の理解と協力、応援があり今の自分があります。

受験生活を送っていた時は、早期合格している知り合いが羨ましくて羨ましくて、私もできることならば不合格というものを経験せずに合格したい、それに何より早く社会にでたいと思っていました。しかし、公認会計士試験に合格した今、私は二度の挫折が自分にとって本当に貴重な経験になった、さらに言えば、このような経験ができてよかったとさえ思います。失敗を通じて自分の弱点を見つめなおし、改善するよう努力することができました。他人と比較するのではなく、自分自身と闘うことの意味をようやく理解することができました。目的を達成した喜び、自信、充実感を得ることができました。そして、かけがえのない仲間に出会うことができました。もう後悔していることはありません。

私の大学生活は、入学当初思い描いていた以上に有意義なものでした。今の私は、大学生活で得たものは何かと尋ねられた時、公認会計士試験の合格のみならず、自信と経験、それから一生の友達を得ることができたことと胸を張って言うことができます。これらはすべて、私の大切な宝物です。同じ目的をもつ仲間と切磋琢磨した日々のことを決して忘れることはないでしょう。中央大学に入学し、経理研究所に所属できたという縁に感謝すると同時に、中央大学の卒業生として公認会計士になれたことをとても誇りに思います。

現在、さまざまな講義を通じ、公認会計士が社会に対して果たす役割の大きさや会計士として求められる倫理観、独立性や専門性の観点から、社会的責任の重さを実感しています。公認会計士全体に対する社会からのイメージは個々の会計士の言動から導かれること、そして私もまだ会計士補ではありますが、そのイメージを構成する一人に

なったことを自覚し、責任ある行動を心がけたいと思います。社会から信頼される一人前の公認会計士になれるよう精一杯努力していきたいと思

います。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

公認会計士二次試験合格体験記

商学部経営学科2004年卒業
飯塚千尋

私が公認会計士を目指したのは、高校3年の進路決定の時でした。当時は、IT起業が活発になされ始めた頃で、そのような起業家の話をビジネス雑誌で読むことによって、経営者と直接話したい、経営者の力になれるような仕事に就きたいと思うようになりました。その結果、経営者との距離が近く、さまざまな会社を見ることができる監査という職業を知り、公認会計士という資格を目指すことになりました。

そして公認会計士になるためには、どこの大学に行くべきかを考えました。公認会計士試験の合格人数が多い大学を調べ、結果として経理研究所のある中央大学へ進学することを決めました。中央大学ならば、経理研究所が学内にあり、大学の授業と試験勉強を両立できる環境が整っていると思えたからです。

そして、無事中央大学に入学できた私は、経理研究所に所属し高い意識を持って学業に望もうとしていました。最初の数ヶ月は当初の意識で続けていたのですが、次第にだらけてしまい、いつかいつか合格するだろうという低い意識になっていました。そのような中で、周りの友人たちが就職を決めていき、私は次第に焦りが出てきました。いつになったら合格できるだろうと、努力もしていないのにそんなことを考えていました。このままではいけないと思い、卒業一年目には絶対合格するという気持ちでもう一年頑張ろうと勉強しました。しかし、その気持ちも長く続かず、自分の中に休む理由を見つけては勉強をサボっていました。今思えば、この頃の自分はなんて意思の弱い

人間だったのかと思い知らされます。結局、短答は合格したものの、論文式は落ちてしまいました。しかし、公認会計士をあきらめることができず、また今まで怠けていた自分に満足できていなかった私は、両親の協力のもともう一度受験することを決意しました。そして受験するにあたりもっとも意識したことは、自分は意思の弱い人間であることを認識すること、また、決して能力があるわけではないのだから他人よりも努力することでした。このようなことを毎日考えながら過ごすうちに、勉強もサボることなく毎日コツコツ継続することができました。その結果、今年度、私はとうとう合格することができたのです。

このように、私が公認会計士第二次試験に合格できたのは、たくさんの人の支えがあったからです。

まず第一に、経理研究所の講師の先生方のおかげです。経理研究所の講義、テキストはわかりやすく、また答案練習は質、量ともに大変合格に役立つもので、他の専門学校に決して負けないと思っています。また、先生方は単に試験に合格する知識だけでなく、合格するための人格形成や合格後の公認会計士としてのあり方まで、勉強を通じて教えてくださいました。この点は、専門学校ではまず教えてくれることなく、経理研究所の非常に優れていることであり誇れる点であると思います。

また第二に、このような経理研究所の運営を支えてくれている中央大学の先輩たちや関係者の方々です。この方々を抜きに経理研究所はありえ

ないですし、今の私もありません。先日行われた中央大学記念館での祝賀会において、経理研究所は先輩たちの寄付金で成り立っているということを知り、深い感謝の気持ちを抱きました。

そして最後に、やはり両親のおかげです。私が公認会計士を目指すに当たり、快く応援してくれ、精神的にも経済的にも支えになってくれました。また、合格の報告を一番喜んでくれたもの両親でした。

今回私は公認会計士第二次試験に合格できましたが、来年には新試験制度により租税法と監査論の受験が待っています。そして、実務補習所の受

講や監査法人での勤務もあります。受験生の時のように時間が無制限にあるわけではなく、すごく忙しい毎日がやってくることでしょう。受験生時代は合格することがゴールだと思ってやっていたが、今では準備体操だったのだと思わされます。まだスタートラインに立っただけのことです。これから自分のゴールに向かいまだまだ努力していきたいと思います。そんな時思い出したことが、受験時代に毎日自分に言い聞かせていたことです。自分を有能とおごらず、これからの新しい人生を歩んでいきたいと思います。

平成17年度事業計画（平成17年4月から平成18年3月まで）

- | | | | |
|----------------------------------|---------|------------------|----------|
| 1. 中央大学講演会講師派遣 | 未定 | 4. 第18回CPAゴルフ会参加 | 平成17年10月 |
| 2. 総会、研修会及び懇親会 | 平成17年6月 | 5. 会報の発行 | 平成18年1月 |
| 3. 日本公認会計士協会研究大会参加
(ホテル仙台プラザ) | 平成17年7月 | 6. 研修会及び新年会 | 平成18年1月 |

なお、平成18年4月より平成19年3月までの役員は以下のとおりです。
会員の皆様の絶大なるご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

会 長	福田真也	
幹 事 長	後藤徳彌	
幹 事	柏崎周弘(会計担当)	河合明弘
	岸田 靖(会報担当)	瀧澤章夫
	瀧澤 晋(名簿担当)	都甲和幸
	中村嘉伸	三宅博人
	吉井敏昭	中原國尋
	降旗京二	熊坂博幸
会計幹事	荻野八郎	高瀬正行
	古川行正	

平成16年度収支決算書

(自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)

(単位：円)

I. 収入の部	平成16年度予算額	平成16年度決算額	差 額
1. 会 費 収 入	1,300,000	1,182,000	118,000
2. 総会懇親会収入	400,000	374,000	26,000
3. 講演会等行事収入	300,000	295,000	5,000
4. 同 好 会 収 入	0	0	0
5. 中央大学募金活動支援収入	0	441,500	△ 441,500
6. 受 取 利 息	1,000	67	933
収 入 合 計	2,001,000	2,292,567	△ 291,567
II. 支出の部			
1. 総会関係支出	750,000	326,000	424,000
2. 講演会等行事支出	500,000	426,339	73,661
3. 会報関係支出	300,000	365,580	△ 65,580
4. 学生奨学関係支出	600,000	0	600,000
5. 日本会計研究学会寄付金	0	200,000	△ 200,000
5. 対 外 関 係 支 出	50,000	72,010	△ 22,010
6. 事 務 費 用	100,000	26,640	73,360
7. 雑 支 出	50,000	39,859	10,141
支 出 合 計	2,350,000	1,456,428	893,572
当 期 収 支 差 額	△ 349,000	836,139	△ 1,185,139
前 期 繰 越 金	2,096,733	2,096,733	0
次 期 繰 越 金	1,747,733	2,932,872	△ 1,185,139

貸借対照表

(平成17年3月31日)

(単位：円)

I. 資産の部	
1. 現 金	217
2. 郵便貯金	2,926,725
3. 振替口座	5,930
資産の部合計	2,932,872
II 負債の部	0
III 収支差額の部	
次期繰越収支差額	2,932,872
負債及び収支差額の部合計	2,932,872

財産目録

(平成17年3月31日)

(単位：円)

I 資産の部	
1. 現 金	217
2. 郵便貯金	2,926,725
3. 振替口座	5,930
資産の部合計	2,932,872

平成17年度収支予算書

(自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)

(単位：円)

I. 収入の部	
1. 会 費 収 入	1,300,000
2. 総会懇親会収入	400,000
3. 講演会等行事収入	300,000
4. 同 好 会 収 入	0
5. 受 取 利 息	100
6. 前 期 繰 越 金	2,932,872
収 入 合 計	4,932,972
II. 支出の部	
1. 総会関係支出	400,000
2. 講演会等行事支出	500,000
3. 会報関係支出	400,000
4. 対 外 関 係 支 出	100,000
5. 事 務 費 用	50,000
6. 雑 支 出	50,000
支 出 合 計	1,500,000
次期繰越収支差額	3,432,972

会費振込のご協力ありがとうございました。本年度もよろしくお願ひします。

以 上

平成17年公認会計士第二次試験 出身大学別合格者数

1位	(1)	慶應義塾大学	208名	7位	(5)	神戸大学	43名
2	(2)	早稲田大学	158	8	(6)	明治大学	40
3	(4)	中央大学	108	8	(一)	関西学院大学	40
4	(3)	東京大学	61	10	(9)	京都大学	37
5	(7)	一橋大学	51	() は前年順位			
6	(7)	同志社大学	48	他大学の人数は日本公認会計士協会の調査による。			

編集後記

岸 田 靖

「今冬は暖冬」との長期天気予報でありましたが、各地で記録的な積雪となるなど、例年にも増して寒い冬となっているようです。皆様のお住まいの地域はいかがでしょう。我々公認会計士業界を取り巻く環境も、どんどん厳しさが増しているようで、そういった観点も含めて次世代の会計士業界を担う方に対してどうすれば良いかというポイントについて木下先生にご寄稿頂く事ができました。編者も先輩会計士の一人として、改めて、業界や後輩等に対してできることを整理しかつ実行に移さねばと心新たな思いを抱いている次第であります。また、今年度は中央大学公認会計士会の会長改選期であり、新会長として福田先生にご就任頂いておりますので、会長に就任されての取り組み等についてご寄稿頂きました。期せずして木下先生と同様の切り口から「監査」を取り巻く厳しい環境・状況についての記述

が為されておりますが、両先生の「会計士業界を何とか盛り立てたい!!」との熱き思いを感じざるにはいられませんでした。是非、皆様のそれぞれのお立場でお読み頂ければと存じます。また、当年度の会計士二次試験合格者の柿沼さんと飯塚さんには恒例の合格体験記をご寄稿頂きました。財務報告の信頼性に関する内部統制監査制度導入を目前に控え、このような新たな職域を両氏のようなフレッシュな若者とともに社会の信頼に応え、期待を上回るような成果をもって開拓していかなければならないと思います。会員諸先生方の益々のご活躍・ご発展を切に願う次第であります。

なお、今回から卒業年度・学部を含めた会計士二次試験合格者個人名簿の記載が出来なくなりましたことをお詫び申し上げますとともにご了承頂ければ幸いです。

中央大学公認会計士会報 No.12

平成18年1月1日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

福田 眞 也

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5

中央大学駿河台記念館4階

中央大学経理研究所気付